

ビワ生育情報

千葉県
平成30年10月号

平成30年7～9月の気象

平成30年7～9月の気象は表1に示した。7月の平均気温は第6半旬を除く5半旬で平年を上回った。月平均気温は26.6℃で、平年より2.3℃、前年より1.0℃高かった。

降水量は第3及び第6半旬を除く4半旬で平年を下回り、第4及び第5半旬では降雨がなかった。月合計は155mmで、平年の80%と少なかったが、極めて降水量が少なかった前年と比較すると397%と多かった。

日照時間は第6半旬を除く5半旬で平年を上回った。月合計は256時間で平年の151%、前年の102%であった。

関東甲信地方の梅雨明けは6月29日ごろで、平年より22日、前年より7日早かった。

8月の平均気温は第2及び第4半旬を除く4半旬で平年を上回った。月平均気温は26.8℃で、平年より0.8℃、前年より1.2℃高かった。

降水量は全ての半旬で平年を下回り、第1及び第6半旬には降雨がなかった。月合計は26mmで、平年及び前年の18%と極めて少なかった。

日照時間は第2半旬を除く5半旬で平年を上回った。月合計は255時間で平年の118%、前年の163%であった。

9月の平均気温は、第3及び第6半旬を除く4半旬で平年並みか高かった。月平均気温は22.7℃で、平年並みで、前年より0.2℃高かった。

降水量は、第1半旬を除く5半旬で平年並みか上回った。月合計は416mmで、平年の166%、前年の148%であった。

日照時間は、第2半旬を除く5半旬で平年並みか下回った。月合計は115時間で平年の79%、前年の86%であった。

9月30日に台風24号が和歌山県に上陸し、日本列島を縦断した。その影響で、本県にも農作物や園芸施設等に大きな被害が生じた。

表1 平成30年7～9月の気象(暖地園芸研究所)

月	半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	25.8	22.7	25.5	7	37	16	42	21	32
	2	26.0	23.3	25.0	25	44	0	37	23	50
	3	26.8	24.4	25.8	53	38	0	38	25	59
	4	27.5	24.7	25.6	0	23	13	53	28	41
	5	27.7	25.1	26.4	0	25	0	49	32	37
	6	25.5	25.8	25.3	70	27	10	37	42	32
月平均/計		26.6	24.3	25.6	155	194	39	256	169	250
8	1	28.1	26.0	24.5	0	21	78	54	36	15
	2	26.0	26.1	27.4	10	27	4	22	36	38
	3	27.7	26.2	23.7	1	25	53	41	35	4
	4	23.8	26.0	25.0	14	22	2	42	35	17
	5	27.7	25.9	27.3	1	19	0	41	35	44
	6	27.6	25.7	25.9	0	30	4	55	40	37
月平均/計		26.8	26.0	25.6	26	144	140	255	217	156
9	1	25.4	24.9	21.0	24	26	28	18	30	9
	2	25.9	24.2	23.6	75	45	16	33	28	26
	3	21.2	23.5	24.3	30	30	12	10	25	26
	4	22.4	22.4	22.9	59	41	80	18	23	23
	5	22.3	21.4	21.6	52	50	40	21	21	24
	6	19.2	20.4	21.5	176	59	108	14	20	26
月平均/計		22.7	22.7	22.5	416	251	282	115	145	134

樹及び花房の発育

花房の発現期は表2に示した。「楠」は9月10日で、平年より5日、前年より6日早かった。「大房」は9月11日で、平年より9日、前年より10日早かった。「田中」が9月13日で、平年より2日、前年より4日早かった。花房の発現は3品種共に平年より早く進んでいる。花房数は平年より多い傾向である。

夏枝の発生は平年より多いが、秋枝の発生は平年並みで、樹の生育は順調である。

表2 花房発現期(暖地園芸研究所)

品 種	本年 (月.日)	平年 (月.日)	前年 (月.日)
楠	9.10	9.15	9.16
大 房	9.11	9.20	9.21
田 中	9.13	9.15	9.17

平年：1988年～2017年の30年間の平均

台風による被害を受けた樹の管理

10月1日現在、5個の台風が日本列島に上陸した。強風により倒伏した樹は起こし、損傷の程度に応じて枝を切り詰める。起こせない場合は、管理しやすいように枝を整理する。根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。このときバーク堆肥と一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。白紋羽病の恐れのあるところは農作物病害虫雑草防除指針に従って防除する。

11月の管理

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせたい。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

摘房・摘蕾

11月から12月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では最終的な着果率（全ての枝に対して果房が着生する枝の割合）が50～60%になるように調整する。発育不良の花房や混み合った花房等を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房を行うと、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、余分な花房が少なくなるので、摘果作業が軽減される。

摘房と同時に摘蕾を行う。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝(花房の枝)の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は、残された蕾の充実を促すので、摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmに生長して、下部の2～3段の側花こうが分離した頃が作業しやすく、花房全体の開花期を著しく延長することができる。開花期が延長することによって寒害を回避しやすくなるので、この時期を逃さずに摘蕾を行う。

アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシは緑色大型のアブラムシで、ビワの葉裏の主脈に沿って加害する。寄生された葉は紅(黄)葉し、次々と加害しながら繁殖していくので、短期間のうちに甚だしい落葉を見ることがある。また、排泄物はすす病を誘発するため、樹勢が著しく低下する場合もある。防除は発生状況を見て随時行う必要があるが、発生初期が効果的である。11月にはナシなどからアブラムシが移り、繁殖期に入るので、この時期の防除は重要である。防除に当たっては、農作物病害虫雑草防除指針に従って行う。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>